

「栄養」は心身の健康の基礎である。適切な栄養を摂取することは生体機能維持のために必須であり、医療においても病態に応じた適切な栄養管理を行うことが疾病治療を行う土台となる。小児期は胎児から乳幼児、学童思春期まで、人生の中で最も心身が成長・発達する時期であり、栄養が心身に与える影響が非常に大きい時期である。さらに、栄養素のみでなく、「食」という行動は生活習慣の根幹を形成して健康アウトカムに大きく寄与し、美味しく楽しく食べることは人生を豊かにし、子どもたちの社会性を育む。

小児栄養フェローシップは、「成長・発達」という視点を常に持ちながら、「子どもにとっての最良の食と栄養」を実践することができるようになることを目標とする。

■一般目標

1. 栄養生理を医学的に正しく理解する：
 - ・代表的な栄養素の機能と役割、消化・吸収・代謝について、生化学・生理学事実に基づいて正しく理解する。
 - ・摂食嚥下および排泄行動の正常発達と、それぞれの障害について正しく理解する。
2. 栄養管理を理解し実践する：
 - ・栄養管理の6つのステップを理解し、実践する。
 - ・患者の病態を把握し、栄養状態を評価し、必要な栄養方法をプランニングする。
3. NST (Nutrition Support Team) の活動を担う：
 - ・NSTの一員としてNST活動に中心的に関わる
 - ・栄養管理に関わる多職種を統合する役割を担い、チームマネジメントを実践する。
4. 食育活動に携わる：
 - ・健康促進・疾病予防のための食育教育・健康教育を実践する。
5. 小児栄養に関する研究を行う
 - ・小児栄養に関する医学的な研究を計画し、実践する。

■個別目標

1. 食事歴を正確に聴取できる
2. 栄養を適切に評価できる
3. 発達段階（乳児期・離乳期・幼児・学童・思春期）に合わせて栄養指導ができる
4. 授乳（母乳・ミルク）の指導ができる
5. 離乳食の指導ができる
6. 適切な食生活・食習慣・食育の指導ができる
7. 肥満度の算出ができる
8. やせによる検査値の異常を評価できる
9. 肥満による検査値および血圧の異常を評価できる
10. やせ、肥満に対する栄養指導ができる
11. 生活習慣病、メタボリックシンドロームを診断し、栄養指導ができる
12. 経腸栄養・経静脈栄養を適切に選択し、実践できる
13. アレルギー疾患、慢性心疾患、慢性腎疾患、低出生体重児に対する栄養指導ができる
14. ビタミンや微量元素を含む各栄養素の欠乏・過剰を診断できる
15. 特殊ミルクを適切に使用できる
16. 各種代謝性疾患において検査成績を的確に選択し、栄養指導に応用できる

■学習項目

1. 栄養生理
 - A) 摂食嚥下の発達と障害
 - B) 消化管の機能の発達と障害
 - C) 排泄の発達と障害
 - D) 炭水化物の消化・吸収・代謝
 - E) タンパク質の消化・吸収・代謝
 - F) 脂質の消化・吸収・代謝
 - G) ミネラルおよび微量元素の役割

2. 栄養と成長・発達
 - A) 栄養が乳幼児の発達に与える影響
 - B) 母乳・ミルク
 - C) 成長の評価方法
 - D) やせ、体重増加不良 (Faltering growth、Failure to thrive: FTT)
 - E) 肥満、メタボリックシンドローム

3. 病態栄養
 - A) 神経疾患・摂食嚥下障害
 - B) 食物アレルギー
 - C) 代謝疾患
 - D) 心疾患
 - E) 腎疾患
 - F) 外科疾患
 - G) 肝胆膵疾患
 - H) 移植医療
 - I) 腫瘍性疾患
 - J) 集中治療

4. 栄養療法
 - A) 経腸栄養
 - B) 経静脈栄養

5. 栄養管理
 - A) 栄養アセスメント
 - B) 栄養プランニング
 - C) 栄養モニタリング